

株主の皆様へ

第7期 2008年1月1日~2008年12月31日

CONTENTS

世界のモノづくりを 進化させる「産業用センサ」	1
株主の皆様へ	3
TOPICS ①	6
■ 2008東京国際包装展(TOKYO PACK2008)レポート	
TOPICS ②	7
■ 2008国際画像機器展レポート	
要約連結財務諸表	8
会社概要／株式の状況	10



社会からも、企業からも求められる産業用センサ

「安全・安心な商品を、低価格で求めたい」——そんな社会のニーズを実現するために、世界の工場では、品質管理と効率生産を実現する要として産業用センサが使われています。社会と企業、それぞれのニーズを背景に、当社製品の活躍の場も年々広がっています。

センサが求められる背景

社会的背景

- ・高品質で低価格な商品を求める消費者ニーズ
- ・製品や食品の安全に関する意識の高まり
- ・トレーサビリティ確保への要望

企業のニーズ

- ・グローバルなコスト競争に打ち勝つ生産力
- ・スピーディで合理的な生産
- ・サプライチェーンの最適化

世界のモノづくりを 進化させる「産業用センサ」

産業用センサが実現するソリューション

直接、モノに触れることなく、数量や位置などさまざまな特徴を検出できるセンシング技術。産業用センサは、センシング技術を使って、生産性や品質を高めるために、世界のモノづくりの現場でさまざまなソリューションを実現します。

1. 生産性の向上

高速で稼働する生産ラインで、大量に流れる製品をカウントしたり、微妙な差異を一瞬に見分けるなど、生産性向上に欠かせない存在です。

〈ソリューション例〉

- ・大量生産される製品を高速でチェック
- ・省力化が図れてコストダウン
- ・人の労働では非効率な作業を自動化

2. 品質の向上

人の目ではわからない微細な変化や差異をキャッチできるなど、品質の向上に欠かせない存在です。


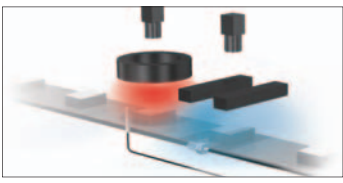
〈ソリューション例〉

- ・生産プロセスの初期で不良品を排除
- ・品質保持のため出荷前の全品チェック
- ・人の目では見えない微細な傷を発見

当社が扱う産業用センサの種類とその特長

	特長	当社製品	製品使用事例
光電センサ	可視光線などを使って、主に検出物の有無を判定するセンサです。検出物を痛めることなく、ほとんどの物体を高精度に検出でき、応答速度も速いといった特長があります。	<p>アンブ内蔵センサ</p> 	 <p>ダンボールの通過確認</p>  <p>基板の位置決め</p>
変位センサ	レーザ光線などを使って、検出物の移動や凹凸、寸法などを高精度で測定するセンサです。ほとんどの物体の測定が可能で、レーザ式は応答速度が速いといった特長があります。	<p>マルチレーザ変位センサ CD5シリーズ</p> 	 <p>ガラスの厚み測定</p>  <p>シート材のループ制御</p>
画像センサ	カメラで撮影したデジタル画像を処理して、色・面積・記号・文字などの情報を解析するセンサです。画像解析をすることで複雑な形状を認識できるといった特長があります。	<p>マルチカメラ画像センサ MVSシリーズ</p> 	 <p>印刷物の乱丁検査</p>  <p>ラベルの印字チェック</p>

LED照明の特長

LED照明	画像センサ使用時に、対象物を最適な画像で撮影するための照明ユニットです。LEDはエネルギー変換効率が高いため消費電力が少なく、長寿命といった特長があります。	<p>画像処理用LED照明</p> 	 <p>LED照明使用例</p>
-------	--	---	---

連結業績は増収減益。景況悪化を踏まえて販売戦略を転換する一方、新製品の投入でシェア拡大を図ります。



オプテックス・エフェー株式会社 代表取締役社長

小國 勇

Q 当期(2008年12月期)の業績のポイントを教えてください。

A 「低価格・高品質」の製品を軸に国内市場重視へと転換。原材料の高騰や人的投資の増大などから減益となりました。

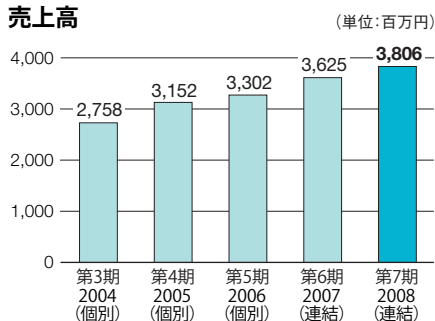
100年に1度といわれるような経済危機の中で、当社グループが注力してきた電機、自動車、半導体関連業界をはじめとした各顧客業界では、設備投資の凍結や抑制傾向が強まり、とりわけ第4半期には需要が大きく減少しました。

当社グループはこうした市場動向を踏まえ、2008年秋から販売戦略を転換し、世界最大の制御機器マーケットである国内市場の深耕に注力しました。ターゲットとする業界を品質管理が不可欠な食品や医薬品、化粧品などの三品業界に置き、「低価格・高品質」の競争力ある製品を軸に営業活動を展開しました。

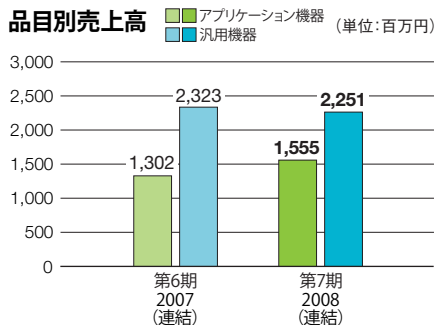
製品開発では、画像センサや画像処理装置、LED照明事業などの分野で積極的に推進し、新製品を発売するとともにパイロット版を展示会でリリースしました。

こうした結果、連結売上高は前期に比べ微増しましたが、特に上期における原材料価格の高騰、開発や営業体制強化に

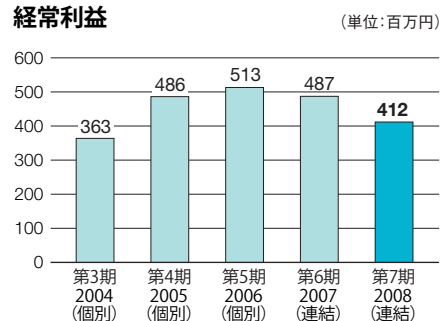
売上高



品目別売上高



経常利益



ともなう投資が利益面を押し下げる結果となりました。

当期の連結業績は、売上高は38億6百万円(前期比5.0%増)、営業利益は3億76百万円(同17.7%減)、経常利益は4億12百万円(同15.3%減)、当期純利益は2億15百万円(同30.0%減)でした。

Q 地域別・製品別の販売動向を教えてください。

A 国内市場はアプリケーション機器が順調に推移。
北米・アジア市場では、需要が急激に落ち込みました。

国内市場は、まず汎用機器では三品業界向けが堅調でしたが、半導体や自動車業界向けは設備投資の抑制から減収でした。アプリケーション機器では画像センサ(CVS・MVSシリーズ)、LED照明が堅調に推移し、また変位センサや画像処理システムも伸長して増収でした。

北米・アジア市場向けは、為替の大幅な変動や急激な需要の落ち込みから減収でした。欧州市場のSICK AG社(独)向けは、汎用機器では一時的な需要の鈍化があったものの、変位センサ、ファイバーセンサ、レーザセンサが堅調で増収でした。

Q 新製品開発の進捗について教えてください。

A 「低価格・高品質」をコンセプトとした開発を推進。
販売増大に寄与する強い手応えを得ています。

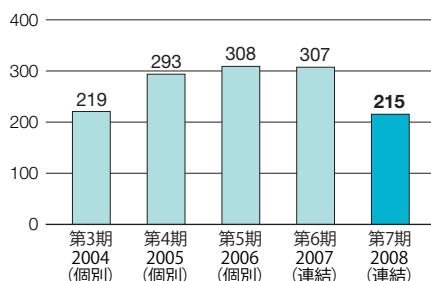
2008年8月、レーザ変位センサ「CD5シリーズ」を発売しました。物体の高さや幅、厚みを測定する変位センサには、何より高精度が求められますが、「CD5」は同クラスの製品では最高水準のスペックを実現しました。さらに測定安定性を発揮する独自開発部品を搭載した上で、先行他社品の価格を大幅に下回る「低価格・高品質」を実現しました。現時点ではサンプル出荷が多い状況ですが、次期からの販売増大が期待できます。

またLED照明事業では、次世代センシングバー照明(P7参照)のパイロット版を展示会で紹介したところ大きな反響がありました。2009年6月発売予定で、順調な販売が期待できます。

また子会社JFASでも、これまで培った3次元画像処理システム技術を応用した中規模装置の開発に注力しました。従来の超高精度大型装置から路線転換したことで需要を喚起し、当期後半から順調な販売です。

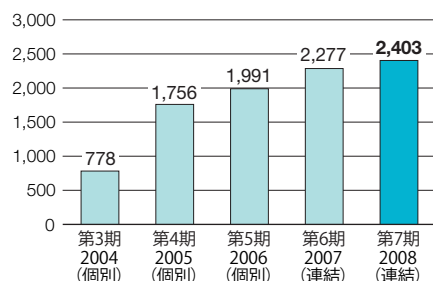
当期純利益

(単位:百万円)



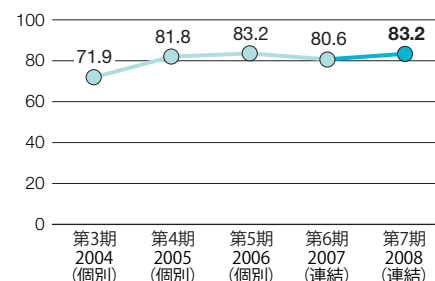
純資産

(単位:百万円)



自己資本比率

(単位:%)



Q 配当について教えてください。

A 期末配当金を増額修正しました。

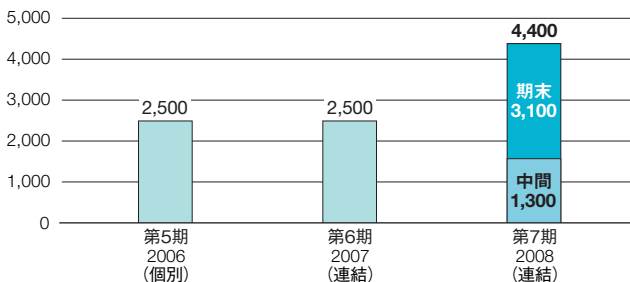
配当性向については、安定した利益還元を継続的に行いつつ段階的に引き上げたいと考えていましたが、長期的にご支援いただいている株主の皆様へ報いるために、財政状況等を十分に検討した上で、当期期末配当から目標を前倒しで実行することとしました。

1株当たりの期末配当金を、当初計画の1,300円から3,100円へ増額修正させていただき、年間配当金は、当期から実施した中間配当金1,300円に期末配当金を加え、1株当たり4,400円とさせていただきます。

なお、当期において大株主の変動がありました。いずれも当社グループと関係が深い協業先や顧客企業であり、関係強化を目的としたものです。

配当金額

(単位:円)



Q 次期の取り組みと見通しについて教えてください。

A 厳しい環境が見込まれる中、国内営業に注力する一方、製品開発や他社との連携強化を積極的に推進します。

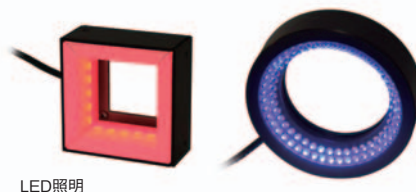
世界的に景気後退が鮮明になる中、設備投資の抑制傾向は当面続くものと予想されます。当社グループは、当期後半から展開してきたように、まず国内市場の深耕に注力し、「低価格・高品質」の競争力を武器に、顧客に密着した営業を推進します。一方で、新製品を投入するLED照明事業などでの売上拡大を見込んでいます。

しかしながら世界的な需要の落ち込みをカバーすることは難しく、次期は減収減益となる見込みです。次期の連結業績は、売上高37億円(前期比2.8%減)、営業利益2億20百万円(同41.6%減)、経常利益2億25百万円(同45.5%減)、当期純利益1億30百万円(同39.7%減)を見込んでいます。

なお、中期目標とする売上高50億円を2011年12月期までに達成するために、新製品の開発投資および営業力強化のための人的投資は、市場動向を見極めながら継続していく考えです。また画像センサとLED照明を組み合わせた画像処理システム市場を開拓するために、同業他社との協業やシナジー効果の追求を今後も積極的に進めていきます。

代表取締役社長

小国 勇



LED照明

アジア地域最大規模の包装展示会で 当社の文字認識画像センサが評価されました。

～採用率で圧倒的NO.1、出展企業23社のうち11社が当社センサを搭載!～

国内外の包装産業が一堂に会し、アジア地域では最大規模となる包装展示会「東京国際包装展 (TOKYO PACK2008)」が、2008年10月、東京で開催されました。

包装機械やプリンタ、ラベラーのメーカーでは、23社が印字検査装置を出展され(当社調べ)、うち11社が当社製の文字認識画像センサ「MVS-OCR」「CVS4」を搭載いただいております。

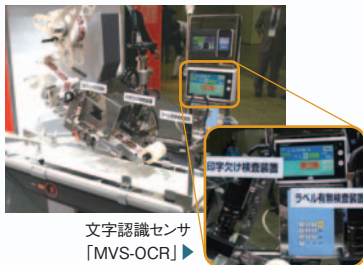
圧倒的な採用率に示された優位性を再確認しました。

当社製センサを搭載いただいたお客様

大阪シーリング印刷株式会社 様

ラベリングシステム「LA9500M上貼機」

シール・ラベルのトップメーカーである同社のラベリングシステム「LA9500M上貼機」に当社の「MVS-OCR」「MVS-PM」を搭載いただいております。「印字欠け」と「ラベル有無」という2種類の検査を同時に行っています。



文字認識センサ
「MVS-OCR」▶

株式会社シンメイ 様

ハイグレードタイプ上貼機「ALS-1200」

産業用各種プリンタを扱う同社の「ハイグレードタイプ上貼機ALS-1200」に、当社の「CVS4」を搭載いただいております。



文字認識センサ
「CVS4」▶

コーンズドッドウェルコーディング株式会社 様

コンティニアスインクジェットプリンタ「A100」

産業用インクジェットプリンタなどを扱う同社の「コンティニアスインクジェットプリンタA100」に、「MVS-OCR」を搭載いただいております。

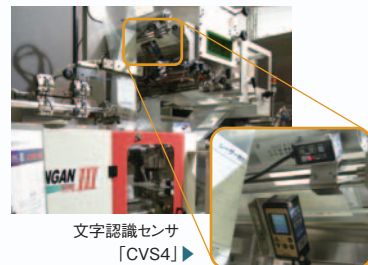


文字認識センサ
◀「MVS-OCR」

大成ラミック株式会社 様

高速充填機「DANGAN TYPE III」

液体包装システムのトップメーカーである同社の「高速充填機DANGAN TYPE III」に、当社の「CVS4」を搭載いただいております。



文字認識センサ
「CVS4」▶

業界初の「センシング照明」と 業界随一の「ローコスト画像センサ」に大きな反響！

生産現場から研究開発まで、「画像処理」は先進産業に必要不可欠な技術です。2008年12月、横浜で開催された「2008国際画像機器展」に、当社グループ3社が共同出展し、ローエンドからミドルレンジ、ハイエンドまで幅広い市場をカバーする技術をアピールしました。当社の「次世代LED照明」と「ローコスト画像センサ」を切り口としたトータルな提案には、世界最大規模のこの展示会に来場した多くの方から強い関心を集めました。



**OPTEX
FA**

DECSYS

JFEAS



オプテックス・エフェー株式会社(当社)

「オールインワン画像センサCVSシリーズ」と「マルチカメラ画像センサMVSシリーズ」を出展。業界随一のプライス実現に、「コスト低減につながる」との多くの声をいただきました。



株式会社デクシス

新製品のオールインワン画像処理ユニット「DM-3000」シリーズをはじめ、画像装置や表面検査装置など、外観および内面検査用の検査機をトータルに提案しました。

〈資料請求はこちらから〉 <http://www.decsys.co.jp/>



日本エフ・エーシステム株式会社

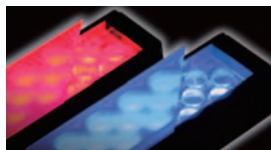
3次元立体解析検査システムや3次元計測用各種モジュールなど、最先端の3次元画像処理技術をアピール。次世代ネットワーク画像処理や超高速・高精細処理システムも注目を集めました。

〈資料請求はこちらから〉 <http://www.jfas.co.jp/>

先行披露した「次世代LED照明」に期待の声

2009年6月発売予定の「センシングバー照明」と「LED照明コントロール電源」の2つの新製品を、この展示会で初めて披露しました。検査精度を高めるために、照明の明るさを数値でモニタリングできる業界初の製品に、「すぐにも採用したい」といった期待の声が数多く寄せられました。

〈資料請求はこちらから〉 https://www.optex-fa.jp/support/catalog_form.php



センシングバー照明

従来品比2.5倍の光量。明るさ変動を監視し、数値で知らせるセンサ



LED照明コントロール電源

明るさ変動をモニタリングし、オートコントロールで最適な照明光量を実現

要約連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	当期末	前期末
	2008年12月31日現在	2007年12月31日現在
(資産の部)		
流動資産	1,839,512	1,755,663
現金及び預金	676,983	632,116
受取手形及び売掛金	759,466	693,935
たな卸資産	257,284	245,180
繰延税金資産	18,735	20,895
その他	127,706	164,159
貸倒引当金	△ 663	△ 625
固定資産	1,041,914	1,067,710
有形固定資産	94,743	92,803
無形固定資産	33,046	63,578
投資その他の資産	914,124	911,328
資産合計	2,881,426	2,823,373

(単位:千円)

科目	当期末	前期末
	2008年12月31日現在	2007年12月31日現在
(負債の部)		
流動負債	368,320	403,941
買掛金	158,431	152,765
1年以内返済予定長期借入金	12,948	12,948
未払法人税等	75,242	103,559
賞与引当金	10,289	8,229
その他	111,409	126,438
固定負債	110,021	142,208
負債合計	478,341	546,149
(純資産の部)		
資本金	546,525	546,525
資本剰余金	554,098	554,098
利益剰余金	1,297,118	1,176,343
評価・換算差額等	550	△ 147
新株予約権	211	—
少数株主持分	4,581	405
純資産合計	2,403,085	2,277,224
負債純資産合計	2,881,426	2,823,373

要約連結財務諸表

連結損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2008年1月1日から 2008年12月31日まで	2007年1月1日から 2007年12月31日まで
売上高	3,806,951	3,625,722
売上原価	2,158,757	2,053,434
売上総利益	1,648,193	1,572,288
販売費及び一般管理費	1,271,316	1,114,143
営業利益	376,877	458,145
営業外収益	39,550	43,521
営業外費用	3,810	14,662
経常利益	412,617	487,004
特別利益	39,000	31,659
特別損失	66,178	6,139
税金等調整前当期純利益	385,438	512,523
法人税、住民税及び事業税	190,239	208,993
法人税等調整額	△ 23,181	△ 441
少数株主利益(△損失)	2,925	△ 3,771
当期純利益	215,455	307,743

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2008年1月1日から 2008年12月31日まで	2007年1月1日から 2007年12月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	258,576	244,444
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 106,081	△ 351,225
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 107,628	△ 128,442
現金及び現金同等物の 増加額(△減少額)	44,866	△ 235,223
現金及び現金同等物の 期首残高	632,116	867,340
現金及び現金同等物の 期末残高	676,983	632,116

連結株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本				評価・換算差額等		新株 予約権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計			
2007年12月31日 残高	546,525	554,098	1,176,343	2,276,967	△ 147	△ 147	—	405	2,277,224
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 94,680	△ 94,680					△ 94,680
当期純利益			215,455	215,455					215,455
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					698	698	211	4,176	5,086
連結会計年度中の変動額合計	—	—	120,774	120,774	698	698	211	4,176	125,861
2008年12月31日 残高	546,525	554,098	1,297,118	2,397,742	550	550	211	4,581	2,403,085

会社概要 (2008年12月31日現在)

会社名 オプテックス・エフエー株式会社
本社所在地 〒600-8815
 京都市下京区中堂寺栗田町93
 京都リサーチパーク4号館8F
設立 2002年1月7日
資本金 5億4,652万円
事業内容 ファクトリー・オートメーション用光電センサ関連機器、装置の
 製造・販売等
従業員数 75名(連結)59名(単体)
事業所 東京営業所
 名古屋営業所
関係会社 オプテックス株式会社(滋賀)
 ジックオプテックス株式会社(京都)
 日本エフ・エーシステム株式会社(神奈川)

役員 (2008年12月31日現在)

代表取締役社長	小國 勇	取締役	小林 徹
取締役	坂口 誠邦	常勤監査役	見座 宏
取締役	岩田 俊彦	監査役	八幡 知行
取締役	西原 弘之	監査役	東 晃
取締役	湯口 翼		

沿革

昭和60年(1985) オプテックス(株)において光電センサの開発に着手
 昭和62年(1987) ドイツのSICK GmbH(現SICK AG社)とのOEM契約により欧州向け出荷開始
 平成元年(1989) SICK GmbH(現SICK AG社)とオプテックス(株)が汎用型センサの開発を目的に合弁(出資比率50:50)で、ジックオプテックス(株)を設立
 平成14年(2002) オプテックス(株)の産業用光電センサ事業部門を分社し、京都市山科区にオプテックス・エフエー(株)設立
 平成17年(2005) 大証「ヘラクレス」(スタンダード)上場
 平成18年(2006) LED事業の開始
 名古屋営業所の開設
 平成19年(2007) 日本エフ・エーシステム株式会社を子会社化
 京都市下京区(京都リサーチパーク)に本社移転
 平成21年(2009) 東京営業所の移転

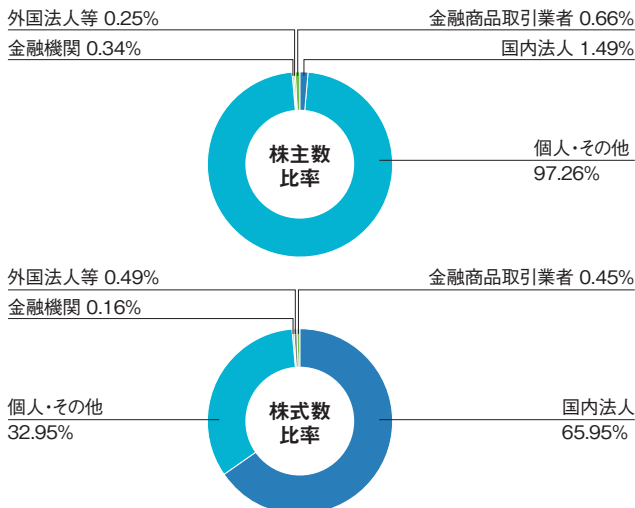
株主数及び株式数 (2008年12月31日現在)

会社が発行する株式の総数 80,000株
 発行済み株式の総数 24,916株
 1単元の株式の数 1株
 株主数 1,205人

大株主一覧 (2008年12月31日現在)

株主名	株数(株)	持株比率(%)
オプテックス株式会社	13,600	54.58
IDEC株式会社	1,000	4.01
小國 勇	812	3.25
ニチコン株式会社	400	1.60
北陽電機株式会社	400	1.60
小林 徹	280	1.12
オフロム株式会社	262	1.05
岩田 俊彦	212	0.85
株式会社 山正マーケティングサービス	200	0.80
西原 弘之	196	0.78

株式分布状況 (2008年12月31日現在)



コンパクト&オールインワン画像センサ「CVSシリーズ」が累計販売1万台を突破



CVS1

CVS2

CVS3

CVS4

CVSE1

当社が2003年9月から発売を開始した画像センサ「CVSシリーズ」が、2008年5月、累計販売台数1万台を突破しました。

「CVSシリーズ」は、カメラ・照明・コントローラ・モニタを全てコンパクトな筐体に搭載したオールインワン型の画像センサ。大がかりなシステムが必要であった画像センサ市場にあって、「コンパクト・簡単操作・ローコスト」という画期的なコンセプトが評価され、幅広い製造業界で採用されています。販売台数は、オールインワン型画像センサの分野で世界No.1[※]。ベストセラー機として、世界の生産ラインで活躍しています。

※2008年5月弊社調べ。

株主メモ

上場証券取引所	大阪証券取引所ヘラクレス
証券コード	6661
決算期	12月31日
定時株主総会	3月に開催
基準日	12月31日
中間配当基準日	6月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	大阪北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

■ ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。